



秋本議員の再生エネ永田町報告



こんにちは、衆議院議員の秋本真利です。

いよいよ、10月26日に203回臨時国会がスタートしました。報道等でご存知の通り、2050年ゼロカーボン掲げるなど、菅内閣では再生可能エネルギーや地球温暖化等の環境分野で前政権よりもブーストがかかる（強化する）ことになるでしょう。その強力なツールが主力電源である再生エネなのは間違いありません。

党の再生エネ議連事務局長として、菅内閣のど真ん中で再生エネ拡大に努めていきます。すでに次期エネルギー基本計画の議論もエネ庁でスタートし、容量市場等課題が山積しており、近々に再生エネ議連でしっかり議論する考えです。また、河野行革規制改革担当大臣とも連携しながら再生エネの拡大に支障となっている様々な規制も見直しの作業をスタートさせます。こちらについても、再生エネ議連で議論をしていくこととなります。

さて、秋田県や千葉県沖の促進区域における発電事業者の公募がいよいよ11月くらいからスタートしようです。現在はパブコメ中なのですが大変多くの意見が来ているようで、その取りまとめに思った以上の時間を割くことになる可能性もあるようです。それらを踏まえて公募占用指針が定められるわけですが、私は法を作っている時から一貫して国産化への貢献度を選定で勘案するべきだと言いつけています。洋上風力発電は、国民の共有財産である海を長期にわたって占用し、国民の負担で成立しているFITで買い取りを行うのですから、その経済波及効果という果実は国民に還流されることが望ましいと思っているからです。そうした味付けになることを期待しています。

国会が始まる前までに視察をしようと思い、国内のいくつかの場所へ行ってきました。その中でも印象深かったのは、沖縄電力が採用している可倒式風力発電です。台風による強風対策と離島での安定供給を目的に、沖縄の離島4島で合計7基の可倒式風車が導入されています。立てたり倒したりの作業は1基あたり2人で片道一時間、ナセルやケーブル等のメンテナンスも比較的安易で手のかからない仕様です。

私はかねてからこの風車に興味があり、年初の予算委員会で当時の河野防衛大臣や小泉環境大臣に、硫黄島や南鳥島への導入を検討することを提案しています。今秋、環境省から両島での再生エネ導入実証実験が公募されたのですが、この風車の採用についても検討されることになったと聞いています。

再生エネは国土の強靱化にも資する電源ですので、環境省の実証実験が成功して本格導入となることを期待したいと思います。



沖縄電力の可倒式風力発電

(自民党再生可能エネルギー普及拡大議員連盟事務局長・秋本真利)

海は国民の共有財産、洋上風力の
経済波及効果は国民に還元を